

地学オリンピック支援委員会

第16回議事録

2021年3月25日
委員長 田中 義洋

期 日：2021年3月20日（土）16：00 - 18：00

形 態：オンライン

出席者：浅野、小泉、芝川、高嶋、田中、久田、渡来（出席者7名で委員会は成立）

議 題

1. 令和2年度の活動報告
2. 第13回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 令和3年度の活動内容の確認

詳 細

1. 令和2年度の活動報告

(1) 委員会を1度開催（第14回：2020年3月29日）

(2) 第12回日本地学オリンピック予選の問題検討

委員会およびメーリングリストでの検討を経て、地学オリンピック日本委員会に「第12回日本地学オリンピック予選 試験問題に関する講評」を提出した。

(3) 国際地学オリンピックの報告

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年の第14回国際地学オリンピックロシア大会が中止となったことを受け、国内大会上位15名に対し、文部科学大臣特別賞が授与された。また、2021年の3月には第13回日本地学オリンピック本選がオンラインで実施され、間もなく国際大会の代表者が決定する予定である。なお、2021年の国際大会はオンラインで計画されている。

2. 第13回日本地学オリンピック予選問題の評価

今回は、各会場での受験ではなく、初めてオンラインでの予選実施となった。そのため、回数が一回増え、一次予選と二次予選とが行われた。今回は、それら二回の予選について、芝川委員が作成した問題と教科書との対比に関する分析資料をもとに意見交換を行った。

一次予選は1問につき解答時間が1分と決まっていて、問題は高等学校地学基礎の教科書の記述を基本にした出題内容で知識を問うものである。二次予選も同様の実施形態で、問題はより難しい知識を問う問題が増え、計算問題もみられるなど、全体的に良く練られた問題である。ただし、問題は制限時間がくると次の問題が表示される仕組みで、見直しなどで前の問題に戻ることはできない仕様となっていたため、受験者にとっては戸惑いもあったようである。

分析資料と委員会での意見や指摘をもとにメーリングリストを通じて検討を続けて評価をまとめ、その内容を地学オリンピック日本委員会に書面で提出する予定である。

3. 令和3年度の活動内容の確認

次の予選問題に関しても翌年の同時期に委員会を開催して検討を行うことを確認した。また、次回予選の広報に、地学オリンピック日本委員会が作成するポスターを活用する案が出された。

以上